

平成30年度 行政評価事業別シート

	実計対象 <input type="checkbox"/>	評価対象 <input checked="" type="checkbox"/>	新規 <input type="checkbox"/>	完了事業 <input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業 <input type="checkbox"/>	担当者	渡辺 勉
	全体計画			経費区分	-	内線	3416
事務事業名	4171 市単治山事業						
所 属	150100 産業振興部・農林課						
施 策	05012200 森林の多面的機能の維持保全と共生						
予算 科目	会計	01 一般会計					
	科目	060301 農林水産業費・林業費・林業振興費					
	事業	030000 市単治山事業					
事業目的				事業概要・効果			
災害等による保安林以外の森林の被害を最少限にくい止める				保安林以外の民有林等の被災箇所を早期に保全することにより、森林の公益的機能を発揮できる。			

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
該当なし	該当なし
平成29年度 実績	平成30年度 予定
坂田山遊歩道丸太柵設置工事 3段 L=20m	坂田山遊歩道丸太柵設置工事 3段 L=20m
平成31年度 予定	平成32年度 予定
坂田山遊歩道丸太柵設置工事 3段 L=20m	坂田山遊歩道丸太柵設置工事 3段 L=20m

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成29年度 決 算	平成30年度 予 算
事業費		387	500
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		387	500
人員数(人)	正規職員	0.1	0.1
	嘱託職員	0.1	0.1
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	714.9	714.9
	嘱託職員	276.6	276.6
	臨時職員	0.0	0.0
	計	991.5	991.5
市民一人当たりの経費		0.0	0.0
総額		1,378.5	1,491.5

(単位：千円)

平成29年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	387	坂田山遊歩道崩落法留杭柵設置工事387
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

(単位：千円)

平成30年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	500	臥竜山遊歩道崩落法留杭柵設置工事500
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	森林が持つ公益的機能を維持するため、自然災害に対する予防治山と被災箇所の復旧を図る。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	坂田山共生の森において、周辺景観との調和を考慮し、山地災害を事前に防止・軽減するための予防治山として間伐材を利用した落石防止用丸太柵の設置により、土砂流出、落石防止の措置を図ることができた。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	国・県の補助事業を活用し、危険箇所の改善に努める。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

災害復旧を図るだけでなく、日頃から現地確認等を実施するなど、山地災害を事前に防止・軽減するための予防治山として、落石防止用の丸太柵の設置を行い、土砂流出、落石防止の措置を図ることができた。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

総合評価コメント

予防治山にも取り組む必要がある。

2次評価

次年度以降の方向性	進め方の改善（拡大）
-----------	------------

2次評価コメント

災害予防のため事業の必要箇所については、事業を集中して実施する必要がある。

外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

外部評価コメント

--